

ウチシルベ

梅田恵美

お住まい相談員



090-7553-8495

takada-ph.co.jp

千葉県市原市ちはら台西2-11-3

ビジョン

医療と地域を繋いできた調剤薬局事業の信頼を礎に、次は介護施設提案で安心を。全国の知恵と独自の真心で、ご本人・家族の不安を「ここなら安心」という笑顔に変えます。

千葉市・市原市・茂原市で「介護施設に入所したいけれど、どこに相談すればいいかわからない」「特別養護老人ホームや介護老人保健施設（老健）の違いがわからない」とお悩みの方は少なくありません。ネットの情報だけでは実際の施設の雰囲気や支援体制がつかみにくく、ご家族の不安が増してしまうこともしばしばです。

そこで、タカダ薬局が提供する介護施設入所相談サービス「ウチシルベ千葉本部」では、調剤薬局という地域のインフラを活かし、現場経験豊富な梅田恵美が中心となって、特養・老健をはじめとする各種介護施設探しを無料でサポートしています。見学同行や手続き支援も含め、地域密着の視点で最適な選択をお手伝いします(2025年12月取材)。

千葉市・市原市で増える「介護施設入所相談」一薬局が担う新たな地域支援

まず最初に、調剤薬局であるタカダ薬局が、なぜ「ウチシルベ」という紹介事業を始めたのでしょうか？

神頭 弊社は調剤薬局を営んでおり、日々多くの患者様やそのご家族と接しています。その中で、介護や入所に関する困りごとを抱えている方が非常に多いと感じていました。また、私自身もいずれ親を介護施設にお願いする時が来るだろうと考えた際、施設の知識が何もない状態では不安だと思ったのが原点です。



タカダ薬局 神頭憲司代表取締役

そこからどのように事業化へと進んだのですか？

神頭 まずは自分たちで介護施設探しの仕事ができないかとリサーチを始めました。すると世の中には「入居紹介」という会社が数多くあることを知りました。何社か当たってみた中で、「ウチシルベ」の本部代表とお話する機会があり、ここなら間違いないと決断しました。

数ある紹介会社の中で、なぜ「ウチシルベ」を選ばれたのですか？

神頭 大きな理由は3つあります。

1つ目は「母体の信頼性と事業領域」です。運営本部の「株式会社暮らし計画」は、介護施設の紹介だけでなく、不動産や建築など「暮らし」に関わる事業を幅広く手掛けており、ホールディングスカンパニーとしてしっかりとした基盤があります。単なる紹介だけでなく、住まいや暮らし全体を支えるバックボーンがあることにスケールメリットを感じました。

2つ目は「若さと活気」です。社長をはじめスタッフの皆さんが非常に若く、エネルギーに満ち溢れており、一緒に仕事をする上で非常に魅力を感じました。

3つ目は「継続しやすい仕組み」です。加盟店としてのロイヤリティや手数料の体系が比較的抑えられており、事業として無理なく継続できる点も参入の決め手となりました。

事業を開始されたのはいつ頃ですか？

神頭 約2年前からスタートしました。最初は私一人でしたが、「やる」と決めてもすぐには動けません。当初は外から人を採用しようかとも考えましたが、社内を見渡したときに「適任者がいるじゃないか」と。それが当時、調剤事務をしていた梅田でした。

なぜ梅田さんに白羽の矢が立ったのですか？

神頭 彼女は非常にガッツがあり、店舗の中でもムードメーカー的な存在でした。自然とスタッフの中心になって周りを引っ張っていくリーダーシップがあり、このパワーとコミュニケーション能力なら、入所相談という対人援助の仕事も任せられると確信しました。

そこから現在の専属体制になるまでは、どのような流れだったのでしょうか？

神頭 最初は薬局の調剤事務と兼務でスタートしました。しかし、入所相談はお客様の人生に関わる重要な業務であり、また千葉市・市原市をはじめ外房エリアを動き回る必要があるため、片手間でできる仕事ではないとすぐに気付きました。

そこで、彼女の代わりに薬局業務を行う医療事務スタッフを新たに採用し、梅田を完全にこちらの事業専属にしました。現在はさらに2名のスタッフを増員し、計3名体制で特別養護老人ホームや介護老人保健施設（老健）、住宅型有料老人ホーム、介護付有料老人ホーム、サ高住などの各種施設入居探しを全力でサポートしています。



特養・老健への入所を支える、タカダ薬局の現場力

梅田さんは元々マスコミ業界にいらっしゃったと伺いました。全く違う業界ですね？

梅田 はい。独身時代はフジテレビなどのマスコミ業界にいて、AD（アシスタントディレクター）をしていました。その後、テレビ東京でAP（アシスタントプロデューサー）として働いていた時期もあります。

すごい経歴ですね！ずっとその道を歩まれていたのですか？

梅田 いえ、結婚して子供が生まれたことが大きな転機になりました。ADやAPの仕事は、家に2〜3日帰れないこともザラにある世界です。都内まで通いながら子育てをするのは物理的に無理だと悟り、マスコミ業界からは完全に...



マスコミ業界にいた頃（最前列の左から2人目）



続きはQRコードからアクセスしてください → → →